

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	分館管理運営事業	会計	一般会計	事業No.	813	施策順No.	28-015	
		事業種別	政策・その他	予算科目	0予算事業			
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり			課等名	図書館			
施策	28 学習交流活動の推進			事業期間	開始	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	市民						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		市民人口(H21.10.1)(人)	107259	106630	105691	105324	105324	
	意図	中央・県及び上郷図書館から遠い市民や交通弱者である幼児・児童・高齢者が、欲しい資料が得られ、心豊かな生活を送り、自ら学び育ち合う場として図書館を利用できる。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	16地区の蔵書冊数(冊)	225903	225716	229423	226500	231074	228000	A
	16地区の貸出冊数(冊)	206955	212288	203344	150000	192056	160000	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	分館蔵書データ化と共に大規模な図書整理をおこなった。図書の並べ方の再検討、表示の作製もし、利用者に使いやすい図書館になった。(6分館)11月～3月の期間中、蔵書データ化のため順次作業館を休館にしたが、貸出冊数は前年比94.3%で、目標達成できた。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	中央図書館及び地域館のバックアップのもとに、16地区の読書活動の推進・生涯学習の地域拠点施設として運営をしている。中央図書館で選書・発注・整理を行い配本した図書は、分館係員が利用者との橋渡し役となり提供。係員はリクエストの受付や利用者の要求を中央図書館に伝え円滑な運営を図る。地区公民館主事が分館主事を兼務。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 16分館の図書選書・発注 2 16分館図書の貸出・返却・書架整理・督促業務 3 分館長・主事会の開催 4 係員研修会の開催 5 16分館の予約受付・処理・回送業務 6 16分館の購入本の分類・装備・目録カード作成・カード組込業務 7 16分館の除籍選書・除籍処理業務 8 16分館各集会行事開催・各種講座への協力	1 購入冊数 2 貸出冊数 3 分館長・主事会 4 係員研修会 5 中央からの貸受冊数 6 受入冊数 7 除籍冊数 8 行事数	1 8,185冊 2 192,056冊 3 2回開催 4 16回開催 5 5629冊 6 8,644冊 7 7,697冊 8 265回
23年度実施計画	図書館運営事業に統合	図書館運営事業に統合	

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	*この事業費は図書館運営事業費と図書館維持管理事業費と図書購入事業費に計上。 特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金 県支出金 起債 その他 一般財源					
	計(A)		0	0	0	
	正規職員所要時間			2,000		
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)			7,152		
	トータルコスト A+B			7,152		

4 事業に対する市民や議会の意見

--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	学びの機会が得られる。	施策の成果指標又はムトス指標	学習活動を行っている市民の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	中央・県・上郷図書館への来館が困難な市民(特に幼児・児童・高齢者)にも、各地区の分館を通して同じように貸出、予約・リクエストのサービスに努めた。一定の基準の本がどの分館にも揃うようにしたこと、予約・リクエストには全蔵書から対応したことで、地域によるサービスの格差を少なくした。		
	後期に向けた課題	特になし		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	分館蔵書データ化をH22年度より開始。それにより、合理的な蔵書構成、選書、除籍を行うことが可能となる。		
	後期に向けた課題	大人の利用者(20代～50代)の割合が少ないので、その層の利用促進を図りたい。		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	利用拡大のため、各公民館・地区と連携したPRをしている。		
	後期に向けた課題	特になし		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	図書館法で無料の原則が謳われている。		
	後期に向けた課題	特になし		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してきましたか	4年間の振り返り	各地区公民館に設置されていることもあり、各地区の公民館やまちづくり委員会と連携して行事を行うなどしている。		
	後期に向けた課題	特になし		
全体を通じて	4年間の振り返り	中央館から分館への予約本貸出冊数が4年間で167%増など、利用者へのきめ細かなサービスで利用の向上がすすんでいる。		
	後期に向けた課題	データ化された蔵書のスムーズな管理と利用促進。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ある	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input checked="" type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	--	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------